

早稲田大学審査学位論文

博士（スポーツ科学）

概要書

大学生アスリートのキャリア移行の検討

—競技者としてのキャリアを踏まえて—

Career transition research on student-athletes:

Considering athletic career path

2024年1月

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科

並木 伸賢

NAMIKI, Nobutaka

研究指導教員： 堀野 博幸 教授

## 第1章 本論文の背景

アスリートおよび大学生アスリートのキャリア支援は、アスリート本人からの要請のみならず社会的にも重要な課題と位置付けられている。大学生アスリートのキャリアに関しては、近年デュアルキャリア（DC）に関する研究が盛んに行われている。DCは、「長い人生の一部である競技生活の始まりから終わりまでを、学業や仕事、その他人生それぞれの段階で占める重要な出来事やそれに伴う欲求とうまく組み合わせることで」と定義され、大学生アスリートにおいては学業と競技の両立を促すことで将来が拓かれると考えられている。そのため、競技引退後や大学卒業後の進路に関する研究は少なく、中でも彼らへの実際の支援・介入について整理した研究はあまりみられていない（課題1）。さらに、大学生アスリートは、競技者としてのキャリアと競技者以外のキャリアについて考えていることが指摘されているにも関わらず、競技者としてのキャリアを含めて彼らのキャリア移行の経験について記述した研究は少ない（課題2）。これに伴い、彼らがキャリアを考える際に直面する困難については、競技者以外のキャリアを考える際に経験するものしか扱っておらず、彼らのキャリアに対する考えについての検討が不十分と考えられる（課題3）。このような背景を踏まえ、本研究では以下の3点について検討を行った。

- (1) 大学生アスリートに対するキャリア移行を促す支援に関する研究について文献レビューを行い、本領域の現状および展望を記述すること（第2章）。
- (2) 本大学生アスリートのキャリア移行に関する経験について、競技者としてのキャリアも含めて記述すること（第3章）。
- (3) 競技者以外のキャリア（主に就業に関連するキャリア）のみならず、競技者としてのキャリアについてもキャリアと捉え、彼らの抱える困難について検討する測定尺度の整備を行うこと（第4章）。

## 第2章 先行研究の検討

本章では、大学生アスリートのキャリア移行を促す支援について文献レビューを行い、本領域の現状と展望について記述を行った。国内外のデータベースで文献検索を行い、最終的に7件の文献が分析対象となった。理論的背景、研究デザイン、アウトカムにバラつきがみられ、頑健なデータは得られていないこと、競技者としてのキャリアに対する支援方法は確立されていないが示唆された。また、支援の構成要素を検討し、大きく6つの要素に分類した。これらの内容に基づいて大学生アスリートは自身のキャリアについて考えること、キャリア支援担当者や支援機関においては、これらの内容に基づく支援方法を展開することで、大学生アスリートのキャリア支援に貢献することができると考えられた。

## 第3章 大学生アスリートのキャリアに対する考え方・障壁・対処法

本章では、大学生アスリートのキャリア移行に関して、半構造化面接を用いてインタビュー調査（12名）を実施した。分析の結果、先行研究と同様に大学生アスリートは、キャリアに対して主に3つの考え方（競技者としてのキャリアを追求する、競技者以外のキャリアを追求する、競技者と競技者以外のキャリアについての選択肢を持つ）とそれぞれに付随する障壁を感じ、対処方法を取っていることが明らかに

なった。競技者としてのキャリアをモデルに組み込むことで、彼らのキャリア移行の経験について実態に即して理解する一助になったと考えている。また、本研究で明らかになった観点を踏まえて、競技者としてのキャリアを支援の枠組みに加えるための基礎資料としての活用が期待された。

#### 第4章 大学生アスリートのキャリア困難感についての測定尺度の整備

本章では、大学生アスリートのキャリア困難感を測定する尺度（以下、困難感尺度）を作成し、信頼性・妥当性を検証した。原案 28 項目を作成し、アンケート調査を実施した。項目分析および最尤法・プロマックス回転を用いた探索的因子分析を行った結果、①競技者以外のキャリアに対する困難、②競技者としてのキャリアを追求することの困難、③競技者引退後のキャリア・生活に対する困難の 3 因子構造 16 項目が得られた。再検査信頼性（2 時点の級内相関係数）、内的整合性（Cronbach の  $\alpha$  係数）、構造的妥当性（異なる対象者での確認的因子分析によるモデル適合度）、基準関連妥当性（既存尺度との相関分析）について概ね満足できる結果であり、本尺度は一定の信頼性・妥当性が確認されたと考えられた。これにより、第 3 章で示された障壁のうち、大学生アスリートのキャリア移行において対処すべき主要な因子が特定され、今後の支援におけるアセスメントの視点を提供することができたと考えられる。

#### 第5章 総合討議

大学生アスリートのキャリア移行支援に対する本論文で得られた知見と今後の支援への示唆を行った。本論文では、競技者としてのキャリアも含めて検討したこと、および競技者としてのキャリアの中でも競技者としてのキャリアを追求すること、競技者引退後のキャリア・生活についての困難を抱えていることが示された。関連要因の検討の結果から、競技者引退後のキャリア・生活については第二章で示したこれまでのキャリア支援方法が有効な可能性が示唆され、競技者としてのキャリアの追求についてはアスリートとして自分自身の強みや大切にしている価値観を明確化する方法が有効な可能性が推察された。今後は、本人および取り巻く関係者（親、兄弟、チームメイト、コーチ・監督など）がどのように競技者としての強みを明確化しているのかについて調査を行うことで、競技者としてのキャリアを含めたキャリア支援方法の確立に繋がると考えられた。

#### 掲載論文

1. 並木伸賢・堀野博幸（2022）プロサッカー選手を対象とした研究における心理面に関する文献レビュー。スポーツ心理学研究, 49（2）：137-156.（第1章）
2. 並木伸賢・堀野博幸（2023）大学生アスリートに対するキャリア移行支援に関する文献レビュー—効果的な支援構築の提案に向けて—。スポーツ心理学研究（早期公開）。（第2章）
3. Namiki, N. and Horino, H.（2023）Career transition experiences of Japanese university student-athletes: A qualitative study. スポーツ科学研究, 20：96-113.（第3章）
4. 並木伸賢・堀野博幸（2023）大学生アスリートのキャリア困難感尺度の作成の試み。スポーツ科学研究, 20：141-158.（第4章）